

2016年度

JICA研修コースの実績紹介

「産業環境対策」コース



2017年6月25日

(公財) 北九州国際技術協力協会 研修部

1. 研修コースの紹介

1)コースリーダー： ヘギ 粉 ヤスノリ 康則



2)研修コース 名

- 和文： H28年度 課題研修「産業環境対策」
- 英文：「Industrial Pollution Control Management」

3)技術研修期間： 2017/1/27 ~2017/4/21

4)参加研修員： 9名（8カ国）

【参加国内訳】

中国、モンゴル、ラオス、ミャンマー、イラク、マケドニア、エジプト、
チュニジア

【参加研修員の国と位置】



世界の8カ国から派遣された9名の研修員の皆さんが、北九州市（JICA九州）に集まり、「産業環境対策」に関する技術研修に参加しました。

2. 案件目標

【背景】

産業振興を積極的に進めるアジア・欧州・中東・中南米地域においては、工業化の過程で十分な環境施策、対策が行えていないため、環境問題が顕著になりつつある。当該地域の産業環境対策の改善に取り組む上で、環境対策の策定と人材育成の両面での対応が必要とされる。

本コースは、日本における生産性、品質向上も視野に入れたクリーナープロダクションの概念から実際に実施する環境対策・管理手法までの知識、技術を得ることができ、更に近隣国の経験も相互に学びつつより広い視野での対策の知識をえることが期待できる。



研修目標

産業環境を管理する行政官の行政施策策定、汚染防止技術、設備管理技術面での能力が向上する。

自国で検討～実施



本邦での研修



研修見学

単元目標Ⅰ
大気汚染防止行政と汚染防止技術の取得

単元目標Ⅱ
水質汚濁防止行政と汚濁防止技術の取得

単元目標Ⅲ
廃棄物処理行政と汚染防止技術の取得

単元目標Ⅳ
環境改善手法を習得し、自国の課題に即した環境改善
計画の策定

3. 研修内容

当コースは、産業環境を担当する行政官が各種産業の環境汚染防止のための指導・監督等を行うに当たり、企業内部で抱える3分野の環境問題解決に必要な最低限の知識と能力を備えることを目的としている。併せて目前の課題解決に向け、その改善策を立案することを目指したプログラム構成とした。

プログラム構成の概要

	環境汚染対策行政	汚染防止技術	汚染防止対策実態
①大気分野	<ul style="list-style-type: none">・大気保全行政・自動車環境対策・騒音対策・大気環境監視、他	<ul style="list-style-type: none">・集塵技術・排ガス処理技術・脱臭技術・低炭素化技術・排ガス測定、他	<ul style="list-style-type: none">・化学工業環境対策・電力事業環境対策・自動車排ガス対策・他
②水質分野	<ul style="list-style-type: none">・水質保全行政・水質環境監視・水環境基準の見方・水環境と水生成物、他	<ul style="list-style-type: none">・排水処理技術・浄化槽の構造・高分子凝集剤・水質測定・土壌汚染処理技術、他	<ul style="list-style-type: none">・食品加工廃水処理・醸造業廃水処理・自動車工場廃水処理・下水道処理場・国立環境研究所、他
③廃棄物分野	<ul style="list-style-type: none">・一般廃棄物行政・産業廃棄物行政・循環型社会形成・他	<ul style="list-style-type: none">・コンポスト技術・福岡方式処理・PCB廃棄物処理・廃棄物溶出試験、他	<ul style="list-style-type: none">・北九州市ゴミ焼却炉・セメント工場廃水処理・産業廃棄物焼却炉・バイオガスシステム・エコタウンセンター、他

当プログラムのスケジュールは、環境行政→汚染防止技術→対策実施(企業訪問)へと展開した。

4. 研修成果

当コースの研修目標は前途の如く、環境担当行政官の能力向上であり、そのためには各単元目標の研修内容を習得し、その成果として環境改善計画(アクションプラン)を作成した。

(1/3)

参加国	アクションプランのテーマ	【コースリーダーコメント】	研修達成度
中国	工場地帯における揮発性有機化合物(VOC)公害への改善対策	西安市のVOCに関する情報収集で印刷業界の影響度が高いことを把握できたので日本の印刷対策技術を調査して適用を図る。	合格
エジプト	大気汚染物質をモニタリングするためのネットワークに接続する工場と煙突数を増やす	モニタリングシステムに加入する企業を増やし産業公害防止の強化を図ることをアクションプランとしていた。エジプト国内の組織を上手く活用することが重要となる。	合格
イラク(1)	石油パイプライン腐食と石油タンクからのドレイン水による土壤汚染事故の削減	会社の環境部門においてEIAやISOのトレーナーも努めており、環境問題にも精通していたのでプラン達成が期待できる。	合格
イラク(2)	河川と公海の水質汚染と石油流失の削減と処理	船からの油流出防止の観点からビルジ水、バラスと水の管理に関する調査と油処理機材油分散剤調査を行い、関係者への環境研修提案に資する内容であった。	合格

参加国	アクションプランのテーマ	【コースリーダーコメント】	研修 達成度
モンゴル	バヤンゴル区における廃棄物の質と量の分析	廃棄物に取り組んでわずかな期間で関連情報は概ね把握しており、アクションプラン策定にあたり放課後も熱心に取り組む詳細な計画に仕上げている。	合格
ミャンマー	埋立処分場の進出水と地下水モニタリングの設置	マンダレー市の埋立地の浸出水は処理されておらず、周辺の村の飲料水への影響が懸念される中、村の井戸水質のモニタリングを行い影響の早期発見、浸出水の適正処理対策に資する重要なアクションプランであった。	合格
ラオス	電気電子機器廃棄物リサイクル工場の問題ある大気汚染処理方法の解決	作業環境を含めて排気ガスの処理が不十分であり、周辺の住民への影響も大きい。アクションプランはしっかりした集塵対策であるが、工場現場の状況を客観的に把握して優先順位を決めて対応する必要がある。	合格
マケドニア	ヴァルダル川の汚染防止対策	対象河川は、国の水事情を左右する重要な川であり、下流域は生活污水による汚染がある。また小規模な牧畜乳酸物や食品工場からの汚濁廃水があるため、実態を調査して浄化槽及び排水処理装置の設置計画に資するものである。	合格

参加国	アクションプランのテーマ	【コースリーダーコメント】	研修達成度
チュニジア	チュニジアにおける現行の廃棄物管理(産業廃棄物)システムを最適化する	国の廃棄物処理センターに持ち込む企業は約30%でセンターの能力不足を補完する必要がある。また、環境意識を高め3Rを推進して埋め立量を削減するアクションプランである。	合格

5. 研修期間中のトピックス

本コースにおいて今年度は次のようなトピックスが挙げられる。

- 1) 2月7日(火) 13:30～： 日本の自治体環境行政における国際協力(意見交換会)
 ・環境省が主催する自治体職員の国際交流研修の一環として自治体食品(27名)と本コース研修員による意見交換会に参加した。



2) 2月22日(水)12:30～：参議院議員KIC視察(研修員との昼食懇談会)

- ・参議院議員(9名)のKIC研修視察に対応し昼食懇談会を行うと共に受講状況(廃水処理技術コース)を視察した。



3) 4月21日(金)12:00～：講師及び視察企業を交えた意見交換会

- ・主要な本コースの講師及び視察企業に呼びかけ、午後からのアクションプラン発表会の前に昼食しながら意見交換会を実施した。研修員(9名)、講師(4名)



6. 所感

本コースは、約30年にわたり毎年実施されてきましたが、今回で終了することになりました。たまたま、本コースのコースリーダーとして初めての経験でしたが、無事に終了することができました。今回参加した研修員の中で英語力の低いメンバーもいましたが、日に日に英語での会話も向上し、全体を通して時間厳守、真面目な受講態度および質疑など、過去の当該コースの中でも極めて円滑なコース運営が履行できたとコーディネーターからコメントをいただきました。研修員に恵まれ研修成果もそれなりに全員が得られたと考えています。

アクションプランも実行にはいろいろな面で障壁も予想されますが、これらをうまく乗り越えなければ達成できないので研修員の自国での実力を大いに発揮してもらいたい。また、日本の環境保全について多くの人に伝え、多くのことを実践に結び付けて欲しいと念じています。

また、参加した研修員は一様に研修内容に満足し、日本に親しみをもって帰国したと思います。これは、JICA関係者(オフィサー、コーディネーター)が、この研修期間中、絶えず研修員に目をかけ励ましの言葉を送っていただいたお蔭と感謝します。お疲れ様でした！

ありがとうございました。

6. 研修思い出アルバム

JICA九州で講義



研修先訪問



研修(実習)



雨の中で研修

